

2025 年度 共同論文

高山市における多世代共生社会

ーウェルビーイングを高めるコミュニティづくりのカギー



(高山市単位町内会を対象としたヒアリング調査での写真)

愛知大学 地域政策学部 地域政策学科

鈴木 誠ゼミナール (3 年) 一同

指導教員：鈴木 誠

高山市における多世代共生社会
ーウェルビーイングを高めるコミュニティづくりのカギー

【目次】

はじめに	3
第1章 全国における町内会の現状.....	5
1-1 日本の人口と課題	5
1-2 人口減少・少子高齢化が地方にもたらす影響	8
1-3 町内会の存在意義	10
1-4 全国の町内会の現状や改革.....	14
1-5 北海道内の町内会の現状や改革	17
第2章 高山市の既存コミュニティが抱える今日的課題.....	22
2-1 高山市の変遷と社会現況	22
2-2 既存コミュニティの声Ⅰー高山市町内会長研修大会の記録からー	29
2-3 既存コミュニティの声Ⅱー単位町内会を対象としたヒアリング調査の記録からー ...	35
小括	72
第3章 先進事例Ⅰー埼玉県秩父郡横瀬町の比較調査から見えるものー	74
3-1 既存コミュニティの今後の展望	74
3-2 埼玉県秩父郡横瀬町の概要.....	78
3-3 一般社団法人みんなでつくる日本一幸せな町横瀬の活動事例	84
3-4 横瀬町のコミュニティ政策事例	88
小括	91
第4章 先進事例Ⅱー福井県坂井市の比較調査から見えるものー	92
4-1 福井県坂井市の概要	92
4-2 ウェルビーイング指標.....	97
4-3 坂井市のコミュニティ政策事例Ⅰ	100
4-4 坂井市のコミュニティ政策事例Ⅱ	103
4-5 坂井市のコミュニティ政策事例Ⅲ.....	107
4-6 坂井市で行われている実践的な地域連携事業の取り組み	111
4-7 坂井市の取り組みから得られる示唆	112
小括	112
第5章 町内会改革の未来	113
5-1 2つの先行研究から得られた示唆と高山市への応用可能性	113
5-2 高山市における既存の取り組みの整理	123
5-3 高山市における新たなコミュニティ政策の可能性	128
小括	144

第6章 ウェルビーイングなコミュニティづくりの諸条件	146
6-1 ウェルビーイングを重視した経済戦略について	146
6-2 高山市民にとってのウェルビーイングとは	149
6-3 高山市におけるウェルビーイングな町内会改革の具体例とは	157
6-4 町内会と個人の自由とウェルビーイング	171
6-5 ウェルビーイングな社会を作るために町内会は本当に必要か	174
小括	176
おわりに、謝辞	177
参考文献	180
参考資料、執筆ゼミ生（3年）一覧	181

はじめに

日本社会は現在、急速な少子高齢化と人口減少という構造的課題に直面している。特に中山間地域においては、若年層の都市部流出や出生数の減少により、地域人口の縮小と高齢化が同時進行し、生活基盤や社会関係の維持が困難になりつつある。こうした人口動態の変化は、地域経済の停滞や公共サービスの縮小を招くだけでなく、住民同士のつながりの希薄化や、地域コミュニティの衰退を引き起こす要因ともなっている。そのため、地域社会の持続可能性をいかに確保するかは、今日の地域政策および地域研究における重要な論点の一つである。

岐阜県高山市もまた、こうした課題を抱える中山間地域の一例である。市域の大部分を山間部が占め、集落が点在する高山市では、行政サービスの提供に地理的・人的制約が生じやすい。その結果、すべての地域に対して均質な支援を行うことは難しく、住民自身が主体となって地域の生活環境や安全を支える役割を担う必要性が高まっている。このような背景のもと、地域コミュニティの維持・再生は、行政任せではなく、住民自治を基盤とした取り組みとして再評価されつつある。

その中心的な担い手の一つとして位置づけられるのが、地域住民による自治組織である町内会である。町内会は、長年にわたり防災、防犯、福祉、環境美化、地域行事の運営など、生活に密着した多様な活動を通じて地域社会をつくり支えてきた。特に中山間地域においては、日常的な見守りや災害時の相互扶助といった機能を果たす点で、町内会は住民の安全・安心を確保する重要な基盤となっている。また、住民同士の顔の見える関係性を育む場として、地域アイデンティティ（郷土愛と誇りに基づく連帯）の形成にも寄与してきた。

一方で、近年の町内会を取り巻く状況は必ずしも安定したものではない。若者や子育て世代を中心とした町内会加入率の低下、役員の高齢化、活動の担い手不足など、組織の持続性を揺るがす課題が顕在化している。特に、世帯主の出席と対面型の会議（寄り合い）を条件に地域共同事業の目標と方法を決め、活動を続ける従来型の町内会活動は、定年延長、仕事のグローバル化、生活価値観の多様化のもとで、個々の生活実態と大きく乖離しながら住民と地域との関係性をますます脆弱にし、もはや看過できない問題ともなっている。このような状況が続けば、町内会が担ってきた地域の共同管理機能の低下のみならず、地域コミュニティそのものの弱体化につながる可能性がある。

こうした課題に対し、町内会を単なる伝統的・慣習的な組織として捉えるのではなく、現代的な価値やニーズに即した形で再定義する視点が求められている。近年注目されている概念の一つに「ウェルビーイング」がある。ウェルビーイングは、経済的豊かさや物質的充足にとどまらず、身体的・精神的・社会的に満たされた状態を包括的に捉える概念であり、個人のみならず地域社会の在り方を考える上でも重要な視座を提供する。町内会が、世代や

立場の異なる住民を結びつけ、安心感や生きがい、相互信頼を育む場として機能するならば、それは地域住民のウェルビーイングを支える基盤として位置づけることができる。

本研究は、岐阜県高山市における町内会の実態に着目し、その役割と課題を整理した上で、町内会をこれからの「地域ウェルビーイングの基盤」として仮定し、その諸条件を明らかにする。具体的には、町内会活動が住民のつながりや安心感にどのように寄与しているのか、また、持続的な地域運営を実現するためにどのような工夫や変化が求められているのかを明らかにする。町内会は人口減少が進展する現在も、高山市はもとより全国どこにでも目にするのできる地縁型住民組織である。この組織をどう活かせば、ウェルビーイングな地域コミュニティづくりの基盤となりえるのか。本研究では、こうした問題意識に基づき、高山市をフィールドに調査研究に取り組んできた。その成果を、本稿を通して示していくこととする。